

ヤシガラを用いたトマト養液栽培における農薬の挙動解明

【背景と目的】

都内産トマト栽培で増加しているヤシガラを用いた養液栽培では、農薬登録に際して施用に関する記載はなく、土耕栽培と同様に農薬散布が行われている。しかし、栽培環境が異なるため施用した農薬の残留挙動が異なる可能性があることから、養液栽培で検証し、その安全性を評価する。

【研究概要】

半促成（４月～７月）と抑制（９月～１２月）において、養液栽培と土耕栽培でトマトを栽培し、登録のある農薬を施用基準量の最大量散布して農薬の残留性を比較する。